なんでもインフォ 2014.12

発 行　株式会社 昭和土木設計
岩手県矢巾町流通センター南４丁目１−23　Tel 019-638-6834　Fax 019-638-6389

～ 「ふぶき」「ふきだまり」とその対策～

はじめに

今年もあと残り 1 か月となりました。岩手山では 10 月 7 日に初冠雪、盛岡市では 11 月 13 日に初雪を観測し、いよいよ雪のシーズンが到来してきたように思われます。これから春まで雪とともに過ごす日々が多くなり、車の運転に気を使うシーズンともなります。

そこで今月は、冬の運転の大敵、「ふぶき」と「ふきだまり」、その対策について紹介したいと思います。

ふぶきとは

気象庁によると、「やや強い風」程度以上（風速 10m/s 以上）の風が雪を伴って吹く状態のことを「**ふぶき**」と呼びます。また、積もった雪が風のため空中に吹き上げられる現象を「**地ふぶき**」、強い風以上（風速 15m/s 以上）の風を伴うふぶきのことを「**猛ふぶき**」と呼んでいます。

ふきだまりとは

ふきだまりとは、吹雪粒子がその動きをとめて堆積した雪の小山のことをいい、ふぶきや積雪後の強風により発生します。

風の流れを遮る障害物のまわりや、山の尾根のような地形の不連続なところにできる雪庇(せっぴ)や防雪柵の風下に形成されます。

運転への影響

ふぶきのなかの運転や、運転中にふぶきに遭遇することは、車を運転されている方の多くが体験されていることだと思います。

ふぶきやふきだまりの主な運転への影響として、主に以下の 2 つがあげられます。

【①ふぶきによる影響：視程障害】



写真-1.地吹雪による視程障害
（参考文献:「道路吹雪対策マニュアル」より）

降雪や飛雪のため前方の見通しが悪くなり交通に支障が生ずる状態が視程障害です。最悪の場合はホワイトアウトとも呼ばれるように、視界全体が白い闇の一寸先も見えなくなる状態になります。（写真-1）

【②ふきだまりの影響：立往生】



写真-2.吹きだまりによる車両の立往生
（寒地土木研究所 Web ページより）

ふきだまりに突っ込んで動けなくなることがあります。

また、停車中の車両の周りにふきだまりができ発進できなくなったり、排気管が吹きだまりにより塞がれ車内に排気ガスが流入し生命に危険が生じる恐れがあります。（写真-2）

ふぶき、ふきだまり対策

ふぶきによる視程障害を緩和させたり、ふきだまりを防ぐ対策として、道路防雪林や防雪柵の設置などがあります。以下にその一例を紹介します（写真-3～6）

ふぶき、ふきだまり対策の例

 写真-3.防雪林	道路防雪林は、道路の風上側または両側に植栽される樹林帯をいいます。これにより飛雪量や風速をおさえ、交通障害を緩和します。また、日中の吹雪時において、視線誘導効果もあります。
 写真-4.防雪柵(吹きだめ柵)	左は「吹きだめ柵」と呼ばれる防雪柵です。これは、道路の風上側に設置して風速を弱め、柵の前後に雪を堆積させることによって、道路への吹雪の吹き込みと吹きだまりを防止するものです。
 写真-5.防雪柵(吹き払い柵)	左は「吹き払い柵」と呼ばれる防雪柵です。これは、防雪板を斜めに設置し風や吹雪の流れを下向きにすることで道路上の雪を吹き払い、吹きだまりをできにくくします。
 写真-6.防雪柵(吹き止め柵)	左は「吹き止め柵」と呼ばれる防雪柵です。これは、風上からくる吹雪をせき止め、風下にある道路に達しないようにするものです。吹きだめ柵(写真-4)と比べ路側近くに設置でき、防雪と防風効果のほか、視線誘導効果もあります。

参考文献:「道路吹雪対策マニュアル」寒地土木研究所より一部引用・加筆
写真:寒地土木研究所 Web ページより

おでかけ前に

運転中に天気の急変でふぶきなどに遭遇することがあります。

岩手県県土整備部道路環境課の「岩手県道路情報提供サービス」で、雪量情報や主要道路の様子が画像で確認できます。外出前にチェックしておくことをおすすめします。

おわりに

ふぶき対策として前述のような防雪林や防雪柵などの対策はされていますが、事前に天気予報などで情報を把握し、悪天候のときは「無理をしない」ことが災害や事故を防ぐためのより良い心がけだと思います。

（※作成にあたり、気象庁や国土交通省、寒地土木研究所の Web ページを参考にさせて頂きました。）

株式会社 昭和土木設計の紹介

弊社は、道路・河川・橋梁等の計画・設計、GIS、IT ソリューション等の業務を行っております。

”なんでもインフォ“のバックナンバーについては http://www.showacd.co.jp をご覧ください。

配布者

作成者：コンサルタント事業部